

特集

# 幼児期の過ごし方

幼児期に大切にしたい生活リズム。

家庭では何に気をつけて、どんなふうに通せば良いのか。

8年生を2度送り出し、3巡目の2年生を担任する高橋先生と、

保育園の施設長の石橋先生に、幼児期の過ごし方についての

お話を伺いました。

インタビュー／黒瀧るみ子 ライター／越野美樹



黒瀧(以下K)・・・シュタイナー教育では、幼児期こそ大切、と言われていますが、どのように過ごしたら良いのか、ヒントを伺いたいと思います。シュタイナー保育園で子どもたちはどんな生活をしていますか？

石橋(以下I)・・・登園後に身支度をすませると自由遊びを始めます。大人の介入なしに、子どもたち自らが発する衝動を大切にしながらファンタジーを働かせて遊んでいます。大人は子どもたちが遊びに没頭できるように、子どものそばで見守ります。年齢に応じてトラブルも自分たちで解決できるように見守り、介入は最小限にしています。たづぷり遊んだ後は、朝の集まりをして、ライゲン(季節の情景や人間の営みをリズムのあるうたや言葉とともに動く)をします。午前おやつ後は外遊びで、ここでも子どもたちはファンタジーを働かせつつ砂場遊びをしたり、木登りをしたりたづぷりと体を動かします。雨が降ったらレインコートを着て散歩に出ます。また、週に1回は山道散歩へ。季節による移り変わりも感じながら、急斜面をのぼったり、自然の宝物を見つけたたり。

平坦ではないでこぼこ道を歩くことは子どもの成長発達を促し、「自分で歩けるという達成感、満足感」を持たせます。外遊びの後は給食、お昼寝。体と心を休めた後は順々に起きて静かな遊びを始め、午後おやつ。夕方まで過ごす子どもたちは、手仕事や工作、自由遊びをしてお迎えを待ちます。

K・・・毎日のリズムが大切ですね。家庭でのリズムが崩れると、子どもはどうなりますか？

I・・・遊び込む力がなくなったリ、すぐに遊びに入っていけなくなったりという影響を感じます。友だちとの関係がこじれたり、活動しているなかで気持ちが悪れたりすることにつながりやすいですね。

K・・・私が子どものころは8時に寝るものという、社会全体に緩やかなルールがありました。今は夜更かしに抵抗感がなく、子どもを大人の生活に巻き込んでしまうことが多いように思います。

I・・・最近はお親がハッピーであることが一番大切という考えを持つ人もいますね。確かに大人が

K・・・メディアに触れている子どもが「聴く力」を取り戻すには、どうしたら良いでしょうか？

I・・・子どもがたどたどしい言い方で話そうとすることを、大人が受け止めて聴くことが大切です。そうすると他の子の話も聴くようになります。興味をもって耳を傾けて聴いていないと、子どもはそれを肌感じます。「この子はどんなふうにつづるか」と楽しみにしながら聴いてあげると、子どもは安定します。賢い子に育ってほしいなどの欲が出てしまうと、子どもは自分が受け入れられていないと思ってしまう。ありのままの自分が受け入れられていると感じるのは、言葉だけじゃなくて、視線や顔色などその場の空気感から察するからです。小さい子は特に、1、2年生くらいまでは感覚が開きっぱなしですから。

K・・・子どもは小さければ小さいほど大人の真似をしたがりですが、大人がスマートフォンで何か一生懸命やっているのを見たら、やりたくなりますよね。スマートフォンを子どもの目に触れさせないようにするにはどうしたら良いでしょうか？

幸せじゃないと子どもは健やかに過ごせませんが、大人の生活に子どもを巻き込むのではなく、子どものリズムを守ることが優先してあげたほうが、実は大人が楽になってハッピーになれるのですよね。

K・・・子どもを寝かせてから大人の時間を持つほうが、実は楽ですよ。私は、子どもの前で大人の話をしていないとか、子どもに判断させないなど、この教育に出席して子どもと大人の生活を分けることを知ったことが、すごく助けになりました。

I・・・子どもは遊びも生活もゆったりとしたリズムが良く、遊びは危険がない限りすべて子どもの自由ですが、生活の場面では大人の多すぎない適切な指示が必要です。子どものリズムを待つてあげる必要はありますが、生活の中の「やっていいこと・いけないこと」は子どもに任せない、選ばせない。子どもが成長して自分で判断できる時期までは大人のガイドが必要です。

K・・・具体的に、大人はどのように過ごすのが良いでしょうか？

I・・・子どもは大人の日々の姿を見て模倣し、やりたいと思っ、できるようになります。大人は心を込め、嘘のない姿で生活すること。料理や掃除なども過程の見える、便利すぎない生活にしたいものです。もちろん心の負担とならないよう、できる範囲で努力していくことが大切です。

K・・・大人も手を使うことが少なくなっている時代なので、大人が手を動かす姿を見せるのは大切ですよ。良くても悪くても子どもは大人を見本にするので、それを忘れないようにしたいですね。

高橋(以下T)・・・今、皆さん忙しいので、早口になったり、子どもの行動をせかしたりしがちですが、子どもの時間は本当にゆっくりなんです。低学年は教室に時計がないですが、家でも体験に浸れるような空間がつけられたら良いと思います。「子どもにもふさわしくなるまで待つ」「なぜふさわしくないのか考えてみる」ことが大事です。

K・・・幼児期にメディアから遠ざけていた子どもと、そうでなかった子どもに違いはありますか？



ドーム型の園舎に傾斜を生かした園庭